

## 平成 29 年度 第 3 回市民協働推進委員会 議事録

- 1 日 時 平成 29 年 9 月 22 日（金） 午後 6 時 00 分から午後 8 時 00 分
- 2 場 所 豊川市役所 本 34 会議室
- 3 出席者 会 長 鈴木誠・・・愛知大学地域政策学部教授  
副会長 神谷典江・・・(特非)穂の国まちづくりネットワーク  
委 員 原田鈴香・・・豊川市青年団協議会  
委 員 仲野雅俊・・・元豊川市連区長会副会長  
委 員 小栗慎平・・・豊川高校インターアクトクラブ顧問  
委 員 荒木夏希・・・一般公募市民  
委 員 竹本甲歩・・・一般公募市民  
委 員 稲垣誠・・・ひまわり農業協同組合  
委 員 小林孝行・・・豊川市社会福祉協議会地域福祉課長  
委 員 鈴木一寛・・・豊川市市民部長
- 4 事務局 市民部次長、市民協働国際課長、課長補佐、市民協働係長 係員
- 5 傍聴者 0名
- 6 議事概要

### 1 とよかわ市民協働推進計画（案）

#### (1) 第 1、2 章について

##### 【事務局】

第 2 回の委員会で委員からの意見に沿った内容に作り替えた。第 3 回委員会の前に委員に個別に説明に伺い、作り替えた内容で概ね了承をいただいている。語句の修正等あれば連絡いただき、本日の資料に反映した形で提示させていただいた。ご指摘いただいた点で 3 か所修正した。これで第 1、2 章は確定とさせていただきたいと考えている。

##### 【会長】

第 1、2 章の内容について、事務局が示した（案）で確定してもよろしいか。

##### 【委員】

P1、7 行目、「ボランティア活動」を「市民活動」へ訂正して欲しい。

##### 【委員】

P1 計画の概要で今までの取り組みについて書かれているが、どうして市民協働なのかというのが書かれていないので、文章の中にあっただ方がいいかと思う。市民協働の必要性について各委員の考えを聞いていくという事だったので、考慮してもらえたらと思う。

**【会長】**

経緯の部分に何故、市民協働なのかというものが載ってきていないというご指摘ですが、それを事務局に求めるのではなく、この後の議論の中で明確にしていきたい。

**【委員】**

P20 センターウィズの写真のコメントの訂正をお願いしたい。社会福社会館を使用しているのは、福祉団体だけではないので、「主に福祉団体」を削除して欲しい。

**【委員】**

P33 にセンターウィズの利用状況も載せて欲しい。

**【事務局】**

これは市民意識調査の結果を載せており、市民意識調査ではセンターウィズの利用状況は調査していないため、載せることはできない。P1 のボランティア活動を市民活動へ、P20 の写真のコメントは訂正させていただく。

**【会長】**

前回の指摘を受けて、見やすい計画となっているということで皆さんがご了承いただいたという事でよろしいか。また、誤字などの小さな修正があるようなら、事務局までお知らせいただくこととして、この内容でいきたい。

**(2) 第3章について**

**【事務局】**

計画を策定するにあたり、今までの方針から大きく変更する点は、数値目標を掲げること。基本施策にはそれぞれ指標を定め、その指標の目標値を達成するため、実施施策を展開していくことにしており、基本施策4つ、実施施策9つを提示させていただいた。

基本施策については、アンケート調査から導き出したものであるが、第1回の委員会で各委員の活動における課題を出していただいたところ、基本施策の4つで網羅できる内容であると講評をいただいた。昨年度の委員会でも同様のご意見をいただいているので、基本施策はこれで固めていきたいと考えている。

実施施策として提示させていただいたものは、委員の意見を聞いた中で、事務局(案)を提示したものであるため、皆さんでご協議いただきたい。

P47 から基本施策毎の指標と施策の展開が記載してある。目標値について、資料2を用意したので、参考にして欲しい。まだ取り組むべき具体的事業を掲載せず、実施施策の表は P47 のように示してあるが、最終的には具体的事業を掲載したうえで、

それぞれの事業毎にどの時期から始めるか分かるような記載の仕方（具体的には資料1のような載せ方）をしていきたいと考えている。

本日は、計画において何を指標とすべきか、また、そのための実施施策としてどのような具体的な事業が考えられるかについてご審議いただきたい。

なお、資料3は、市が平成37年までに協働で取り組んでいく予定の事業を各課調査でまとめたもの。具体的事業を考える上で、参考にしていきたい。

#### 【会長】

資料3は、基本施策1～4を考える上での参考資料となるものという事として扱う。本日の審議として、各施策の目標値の設定と実施施策の検討という事でよろしいか。

#### 【事務局】

定めてある指標が的確なのか、それに応じて実施施策の推進がその目標を達成できるものなのかという事を審議いただきたい。

#### 【会長】

まず、基本施策1から考えていくとして、今提示されている指標がいいのか、他に設定するものがあるのかという事のご意見をいただきたい。

#### 【委員】

目指すべき方向性がわかり辛い。施策の表記をもっと工夫して欲しい。市民が見た時に分かりやすくした方がいいと感じる。4つの基本施策を「育てる」「つなぐ」「築く」のような言葉に置きかえたらと思う。また、施策1で登録団体数を増やしていきたいという目標値を設定しているが、団体を増やしていく事が協働の推進につながっていくとは思えない。協働においては、量より質の問題だと思っている。

#### 【委員】

アンケートの結果でかなり衝撃的な数字が出ている。P36②市民活動団体の活動上の課題として「人材・会員の不足」が伸びており、さらに、人材面の課題としては「会員の高齢化」がかなり伸びている。また、P31の市民活動に参加しない理由として、「忙しくて時間がなくなったから」という理由が伸びているし、P30の市民活動を始めたきっかけは、「自分の自発的な意思で」が大きく減っているという現状である。豊川市の実情を見ると、市民活動の伸び悩みを感じる。このような結果の中、委員の皆さんが市民活動を続けている理由を聞いてみたい。そこから市がどのような働きかけをしていくべきか見えてくるし、それが市民活動を活性化する事業や目標値にも繋がるのかと思う。

#### 【会長】

基本施策の目標値を定める必要はあるが、豊川市の現状をきちんと把握しなければ目標値を定める事も難しいと思う。

**【委員】**

参考までに、福祉計画でのアンケートの結果をお話しすると、ボランティア活動に参加した事がない理由として、「仕事が忙しいから」「参加の仕方がわからない」「興味がない」が高い割合を占めている。年齢では20歳代では「興味がない」が3割、30代では「仕事が忙しい」が7割弱となっている。若年層の取り組みとしても、それぞれの年代への取り組み内容を変える必要もあるかと思う。

**【会長】**

過去からの推移を踏まえて目標値を入れていただきたいと事務局から要望があったが、先に数値を埋めたところで現状の改善につながるのかというところは疑問もあると思っている。先ほど委員からも話があったように、委員の中で市民活動、協働を進めるには何が必要かを議論して、その中から必要な取り組みが出てくるのではと思う。2章の結果を踏まえて、また施策の内容を見て、皆さんが感じる事を話していただきたい。施策1には市民活動の支援として、団体登録の促進、財政的支援、活動の場づくりが上がっているが、アンケートでは「時間がない」という人が多くなっている中で、この施策だけで市民活動者が増えるという事にはならないと感じるがいかがか。

**【委員】**

委員の皆さんは忙しい時間を割いて市民活動をされているが、その理由を教えてください。

**【委員】**

単純に楽しいから続けている。

**【委員】**

私がボランティア活動に関わったきっかけは仕事によるもの。自分から率先して参加している訳ではないが、子ども達を指導する立場として多くの意義ある経験をさせたいと思っている。子ども達はボランティアにとっても前向きだが、ボランティアの敷居が高いから、部活という組織で動かざるを得ない。ボランティア情報を得ようとインターネットで検索しても、ヒットしない。一方で、一般公募のボランティア募集には、人が集まらないという現状があるのを聞いている。つい最近、ある施設のイベントで子ども対象の縁日のアルバイトの募集を見た。この施設と私がつながる事ができていたら、アルバイトを雇うことなく、ボランティアで運営ができたのかなと思った。

こういう情報が、簡単にホームページで検索できるようになるといいなと感じたところである。現状では、ボランティア活動へ参加するには、ハードルが高いと思う。市民活動に参加しない理由として、「参加の仕方がわからない」「きっかけがない」が3割を超えている状況を見ると、私が感じている事を多くの人が感じていると思うので、その辺りには何か手を打つ必要があるのではと思っている。

#### 【委員】

市民活動に参加してもらうには、このまちを好きになってもらう事が必要だと思う。まず、参加してみる事が大事だと思う。そこからまちの課題が見えてきて、何かしなければと思うのではないかと感じている。若者の現状としては、興味はあっても一歩踏み出す勇気がない子が多い。大学全体のメールや掲示板での広報から来た情報では参加しないが、個人的に声をかけると参加してくれる子が多い。先ほど、それぞれの年代に応じた参加の支援という話が出たが、若者に対しては、まず、個人的に声かけをしていく事が効果的であると思う。学生が地域貢献事業へ関わる機会は多くなってきているが、責任が重くなると辞めてしまう子が多い。ボランティア活動の責任についてのさじ加減が難しいと感じている。

#### 【会長】

男性よりも女性の方がフラットな関係で付き合いができると感じるので、人との繋がりが重要というのは女性ならではののかなと思う。

#### 【委員】

私自身は、ボランティアをしたいという感覚で市民活動を始めた訳ではなく、団体が運営しているイベントが楽しくて、自分もそこに関わりたいと思って活動に入った。ボランティア情報を見て「やってみよう」と思った事はない。団体の勧誘ではチラシを回覧しただけでは、誰も入ってくれない。個別に訪問して本人と話をすることで、加入してくれる事が多い。気軽に参加して欲しいとは思いますが、市民活動の参加のきっかけには人と人との繋がりが必要なのではないかと感じている。

#### 【会長】

アンケートにあった「忙しいから」は自己防衛で、関わりたくないというのが前提にあって、気軽に参加できる機会を用意してもなかなか成果が出ない理由がそこにあると思う。

#### 【委員】

仕事を退職して時間があつた時に、町内会の役員が回ってきた。今年で5年ほど町内会活動に関わっている。いろいろな活動をしているのに、町内会からの発信がなくて活動の内容を皆さんに知ってもらう機会がなかったため、情報紙を発行することに

した。もともと地域コミュニティの高い地域ではあるが、今も3世代交流などの事業が盛んに行われている。関わってみると、いろいろな人との繋がりが出来て楽しい事も多いと感じている。

**【委員】**

私は福祉のまちづくりを進めていくために、協働はなくてはならないものだと思っている。市民活動団体の定義として、町内会のような地域コミュニティ団体と任意で集まった人からできた団体と分けて考える必要があると思う。NPO 法人も含めて自立している団体には、新たに支援をしていく必要はないと思っている。個人も年齢によって働き方を変えていく必要があるという事だったが、市民活動団体も対象によって支援の仕方を変えていった方がよいと思う。

**【会長】**

地域活動に関わっている人はどのような人が教えて欲しい。

**【委員】**

地域活動というと町内会役員や民生委員、児童委員、サロン活動をしている方が主に考えられるが、団塊世代以上の高齢者が多くなっている。自分の生きがいとして活動していて、そこには笑顔と充実感があると見受けられる。

**【会長】**

生きがいとか楽しみとかそういう本能の部分に訴えかけるものがないといけないのかと思う。義務感から活動を続けさせるのは難しいのではないか。市民活動への支援というのは、関心のある人への情報提供だけではなく、関心のない人をどれだけ巻き込めるかというところが必要だと思う。

かつては、3世代同居が多く、家族が何らかの地域活動に関わっているところを見て自然に関わりに入っていく事ができたが、今は独居世帯が多いため地域活動をしているところが目に触れる機会も減っている。独居世帯でも、老人の独居と働き世代の独居、また学生の独居とさまざまな形があって、それぞれへのアクションが必要であると思う。楽しさを感じる市民活動の支援が必要であって、きっかけは自分の趣味のようなどころから人との繋がりが出来て、仲間と活動していくような流れができるといいのではないかと皆さんの意見を聞いて感じた。支援をするところは、既存のものではないような気がしている。

**【委員】**

町内会への取り組みにおいて、この実施施策ではどうしても町内会の加入率を視野に入れた取り組みになってしまうと思う。身近なところからの参加を呼びかけるのが、市民活動のきっかけには一番効果があると感じているので、町内会の仕組みづくりを

考えないといけないと思う。気軽に参加するものとして用意されているのが、講座というのは疑問を感じるところがある。活発な活動をしている町内会が、他の町内会と連携できる仕組みができるといいなと感じている。それぞれの地域でいろいろな活動をしているが、町内会からの発信がなくてどんな取り組みをしているのか、住民に伝わっていない。活動を発信していく意識が低いので、本当にもったいないと思う。私自身、長い間ボランティア活動に関わっていて、時には面倒だと思ふ事もあるが、多くの人との繋がりが財産となっている。

市民アンケートで「きっかけがない」という回答が多いという話だったが、市ではいろいろなきっかけづくりをしていると思う。講座は本当にいろいろなものが用意されているが、受講者はいつも同じ顔触れになっていてもったいないと感じる。市民活動への入り口は、市が用意するものではなくて、身近なところで見つけるのがいいのかなと感じている。

実施施策 1 は、もっと充実させた内容が必要。実施施策 2 からはすでに取り組んでいるような内容ばかりで、これは素敵だなと思う新たな内容がなくて残念。

#### 【委員】

企業として市民活動に参加すると考えた時に、企業の魅力を伝えられることが大前提であるが、人との繋がりが財産になっていくのではと思っている。企業の視点から言うと、社員が市民活動に関わってもらえるとそこで人の繋がりが出来て、企業活動に反映してくるのかなと思っている。

#### 【委員】

人との繋がりは、市民活動をする上ではとても大きいと思う。つい最近、所属している団体でイベントをやった時に、メディアに取り上げてもらってとてもうれしかった。市民活動は自らの意思で行うことではあるが、人に活動を見てもらう、認めてもらうことで充実感を得られると実感した。

#### 【会長】

51 ページで情報収集の取り組みとして、市民活動に参加したい人に対して積極的に情報を提供するという施策が上げられているが、むしろ参加したくないと感じている人へのアクションが必要なのではないかと、皆さんの話を聞いていて思った。市民活動をして仲間を作ることの楽しさを伝えていくような呼びかけをしていくのが、参加者を増やすことに繋がると思う。そういう事を踏まえて、情報の発信の仕方を考えていく必要があると感じた。

#### 【委員】

今までと同じやり方では、何も進歩がない。これを乗り越えるにはどのような取り組みをしていけばいいのか。

**【委員】**

同じ情報を発信しても受け手の状況による。一生懸命発信しても、受け手が能動的な受け取り方をしたら、意味がないと思う。市民活動に興味がない人に対して、単純に回覧板でチラシを回しても何の効果もない。

**【委員】**

今年、豊川市内の中学校に出前講座のような取り組みをしている。まだ、2校しか行けてはいないが、テーマとして、家族が取り組んでいる地域コミュニティ活動の現状と自分が取り組めそうな地域課題についてワークショップを行っている。子ども達からの話から、家族が町内会活動を負担に思っている状況は何えない。市が考えている町内会活動と現状とは違うかもしれない。

地域活動の担い手は70歳以上の人が多くて大丈夫かなと感じることも多いが、志しや生きがいを感じて取り組んでいる人もいるのでそれは無視できない。今までどおりの紙ベースでの情報提供は必要だが、若い人をターゲットにするなら、SNSで発信した方が効果があると思うので、情報の出し方はとても大事だと思う。情報発信をしてもらう若者ボランティアみたいな取り組みもおもしろいかもしれない。センターだよりや広報誌、ホームページだけでの発信ではなくて、新たな情報発信の方法を模索する必要があると思う。

企業の最近の傾向として、企業のイメージアップを図るために社員にボランティアへの取り組みを学ばせたいという動きがある。企業にボランティア情報の発信をしていく取り組みも、期待されているのではないかと思う。

**【委員】**

豊川市でも、大学生くらいの子がサークルのような団体で市民活動ができるといいなと思う。

**【委員】**

市民の若者が、気軽に参加募集を書き込める掲示板があればと思うが、監視しないととんでもない事にもなりかねないので難しいと思う。豊川市はフェイスブックの広報活動がとても上手なので、頑張っ欲しいと感じている。活動に参加するはじめての一步のハードルを下げるような取り組みが必要だと思う。

**【会長】**

今の情報の出し方は、ただ自分達がやった事、成果の発信しているものが多く、受ける側が各自で自由に活用してくださいという一方通行のものになっている。「一緒にやりませんか」「手伝ってくれませんか」のようなテーマを持った情報発信をしたら、興味を持った人がアクションを起こすかもしれない。双方向の情報発信の取り組みが

必要だと思う。

最近、企業との協働事業を行っている。企業のトップが地域活動へ積極的に参加している人で、地域での繋がりが大きな財産になっていると言っていた。企業を巻き込んだ市民活動を展開するには、テーマを持った市民活動でないと難しい。企業は間接的にでも利益がないと動けない、今の施策の取り組みだと企業にとってうま味がないので、限界があると思う。

**【委員】**

企業としては、豊川市が盛り上がる事は豊川市で活動する企業の発展にも繋がるので、協働のまちづくりは必要だと思っている。

**【委員】**

事務局案では具体的な施策として、企業紙の活用が上げられている。目標指標として、何社の企業紙に情報掲載をしてもらえたかというのもいいと思う。

**【委員】**

企業紙を関係者だけではなく、公共施設に置いて一般市民が手に取れるようにしたらいい。そんな取り組みをしたら、市民活動を企業紙に載せてもらえるのではないか。

**【委員】**

社協だよりを年数回、広報折込で全戸配布している。町内会を通して配っているので、全戸配布といっても町内会に加入していない人には伝わっていない。配布方法を考えないといけないと考えているところ。

**【会長】**

情報の受け手の状況に応じた発信をしていかないと、一生懸命発信しても受け取ってもらえないのではないかと。世代別の情報発信の方法を検討する必要があると感じた。

そこで、市民が市民活動へ参加するための取り組みについてどのような方法が必要か、具体的な事業を委員の皆さんに提案いただきたい。提案していただいたものが全て施策として反映するものではないし、提案したものに責任をもつていただく必要はないので、アンケート結果等も踏まえて、できるだけ多く提案していただきたいと思う。

**【委員】**

事業が固まれば自ずと目標となるものが見えてくると思うので、その作業から始めるのがいいと思う。

**【委員】**

第6次総合計画での指標は、何を設定しているのか。

**【事務局】**

総合計画では、コミュニティ・市民活動への推進の目標指標を「町内会加入率」と、「まちづくり活動に参加する市民の割合」としている。

**【委員】**

市民協働は、市が市民ニーズに対応できない部分をみんなで協力して解決していこうという事であると思うが、町内会加入率との関連性がわからない。事業を提示するのに、こうであつたらいいという感覚で提案してもいいか。

**【事務局】**

市民活動には人との繋がりが重要だとか、楽しいものでなければならないとか、町内会の仕組みを見直さないといけないとか、概念的なものは、皆さんの共通認識。では、どうしたら市民協働が進んでいくのかという一歩踏み込んだ具体的な事業を提案いただきたい。

継続が必要な既存事業は、今までどおり載せていく予定。委員の皆さんには、この計画の目玉となるような新規事業などのアイデア出しをしていただきたい。

また、まちづくりにおいて町内会の存在は重要であると考えており、町内会の加入率が上がればまちづくりの底上げとなり、関心も高まると考えている。総合計画でも数値目標とされているが、市民協働国際課の重要施策と捉えていることをご考慮いただきたい。

**【委員】**

総合計画の策定の時に、市民協働の担当課は市民協働国際課と市の職員は思っているので、市全体の取り組みとして捉えられるような図を載せて欲しい。

**【事務局】**

現状でも、参考資料3でお示ししたとおり市民協働国際課だけでなく、まんべんなくどの課でも協働事業は行っている。委員が担当課だけの課題と感じられたという事なので、今後も協働への職員の意識啓発をしっかりと図っていきたいと思う。

**【会長】**

先ほどの事業提案は、10月16日までに事務局に提出していただくこととする。その他、事務局から連絡事項はあるか。

## (2) その他

### 【事務局】

次回の委員会は平成 29 年 11 月 17 日（金）18 時から、本 33 会議室で行う。  
行政経営改革委員を仲野委員にお願いしていたが、9 月で任期が終了するため、行政課から市民協働推進委員会から再度推薦して欲しいという依頼があった。先に仲野委員に続投をお願いしたところ、承諾いただいたので仲野委員を推薦してよろしいか。

### 【委員】

異議なし。